

令和7年度 地域情報化アドバイザープロフィール

ふりがな	たかお よしひこ	
氏名	高尾 芳彦	
所属・役職	北九州市 政策局 DX・AI戦略室 DX推進担当係長	
活動拠点	主に福岡県で活動していますが全国どこでも大丈夫です。	
略歴	<p>1992年～1998年 メーカーベンダーSEとして従事</p> <p>1998年4月 北九州市に入庁（Uターン）</p> <p>1998年～2000年 門司区役所納税課に配属（市税滞納整理）</p> <p>2001年～2004年 総務市民局情報政策室へ異動（庁内システムの設計・構築、IT研修）</p> <p>2005年～2008年 経済文化局門司港レトロ室へ異動（観光宣伝）</p> <p>2009年～2010年 山口県下関市企画課へ派遣（企画政策、広域連携）</p> <p>2011年～2012年 企画文化局政策調整課へ異動（広域連携）</p> <p>2013年～2016年 戸畑区役所総務企画課へ異動（庶務、区政業務）</p> <p>2017年～2024年 デジタル市役所推進室へ異動（IT基盤整備、標準化、クラウド活用）</p> <p>2025年～ 政策局DX・AI戦略室（現職）</p>	
地域情報化の 専門分野・技術	<p>（計画策定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化推進計画、システム移行計画等の策定 ・システム調達（機能要件・非機能要件仕様書、システム運用手順書等の作成） ・情報部門の業務継続計画の策定（ICT-BCP） <p>（ICTインフラ全般）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル基盤構築とその運用 ・自治体情報システムの標準化・共通化 ・ガバメントクラウド対応 ・IDガバナンス（ID管理、アクセス制御） ・ネットワークとセキュリティ ・マルチベンダーにおけるシステム運用調整 ・ITリテラシー研修、デジタル人材育成 <p>（イノベーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドAIサービスやデジタルツールを活用した業務改善 ・新しいアイデア創出による業務変革 	
専門分野	<p>EBPM（エビデンスに基づく政策立案） AI活用 生成AI活用 シェアリングエコノミー 計画策定支援（地域情報化計画・官民データ計画・自治体DX推進計画等） 人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） 人材（外部人材活用） 自治体システムの標準化・共通化 行政手続オンライン化 自治体セキュリティ 自治体システム調達/地域情報プラットフォーム ネットワークインフラ（Wi-Fi/LPWA/光ネットワーク） 防災 働き方 テレワーク 観光 プロジェクトマネジメント支援 その他</p>	

<p>自治体向けメッセージ</p>	<p>これまでの情報システム構築・運用に関する経験と自治体職員として先例のない業務を担当してきた中での成功事例や失敗談をふまえ、イノベーションを起こすために新しい事案にチャレンジする自治体職員の皆さんの支援ができればと思っています。 特にシステム導入に伴うアウトソーシング契約やサービス提供契約に関する調達仕様書の作成、業務改善ツールの開発やクラウド活用、システム統合運用のノウハウ、共同調達・共用化による合理化やコストダウンの取組みなどへのアドバイスを行います。</p>
<p>関連サイト</p>	<p><観光ホームページ作成> 関門海峡観光推進協議会 (https://kanmon.gr.jp/) 日田彦山線活性化推進沿線自治体連絡会 (https://www.hitahiko.jp/)</p> <p><研究活動> 2019年 AI チャットボットの導入 (https://www.logicalmind.jp/example/interview1/) 2020年 AWS Summit レポート(CUS-11)「クラウド AI を活用した内部事務の効率化」 (https://pages.awscloud.com/rs/112-TZM-766/images/CUS-11_AWS_Summit_Online_2020_kitakyushu-city.pdf) 2021年 ハイブリッドクラウド運用に関する共同研究 (https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/001118223.pdf) 2024年 2030年以降の次世代自治体デジタル共通基盤構想 (https://www.projectdesign.jp/articles/e2815399-fe8b-4a42-9525-feb044aa74ff)</p>
<p>地域情報化に関する実績</p>	<p>これまでの経験業務・研究活動</p> <p>①2002年～2004年、電子自治体構築プロジェクトとして、文書管理・財務会計・出退勤管理・電子決裁・職員情報基盤を搭載した「総合事務管理システム」の構築を担当。職員ポータルからのSSO、共通APIによる電子決裁ルート設定の共用化、紙の職員証をICカードに変更し、認証デバイスとして活用。出勤・退勤のタイムスタンプ管理や休暇取得・時間外勤務命令の電子申請システムを構築。</p> <p>②2005年～2010年、山口県下関市と福岡県北九州市で県域の枠を超えた広域連携事業に従事し、連携事業の中で関門海峡周辺の観光スポットPRサイト「関門海峡 Navi」を構築。これまで紙配布していた観光パンフレットやガイドマップを電子化し、サイト閲覧に変更。</p> <p>③2011年～2012年、九州のローカル線「日田彦山線」の沿線自治体活性化のため、JR九州イベントや沿線自治体情報を掲載するPRサイト「ゆっくりのんびり日田彦山線」を構築。鉄道写真を掲載する「ひたひこギャラリー」など、鉄道ファンに人気のサイトとなった。</p> <p>④2019年 総務省「革新的ビッグデータ処理技術導入推進事業の地方公共団体におけるAI活用に関する調査研究事業」に参画し、通達・通知文書閲覧システムやAIチャットボットを活用した庁内FAQシステム、動画・音声のテキスト書き起こしツールの開発実証と本番実装を行った。</p> <p>⑤2020年～2022年、情報システムの導入や運用に必要なドキュメント類（仕様書、運用手順書）やシステム稼働状況（CPUやメモリ利用率等）を見える化した庁内情報サイト「システム運用ナビ」を整備し、業務システム所管課がシステム調達時に必要な仕様書や運用マニュアル等を閲覧できるようにすることで業務所管課からの問い合わせ等を削減。</p>

		<p>⑥2021年～2022年、北九州市の仮想サーバ基盤である「システム共通基盤」の更新を担当。約90ほどの業務システムを新基盤へ移行するプロジェクトマネジメントを実施。</p> <p>⑦2022年、システム標準化に伴い、北九州市システム共通基盤とガバメントクラウドとの相互運用を検討する為、ハイブリッドクラウド運用を実現するための共同研究を実施。</p> <p>⑧2023年～2024年、ガバメントクラウドとプライベートクラウドを円滑に運用するハイブリッドクラウド基盤（クラウド共通基盤＋システム共通基盤）を整備するプロジェクトマネジメントを実施。</p>
<p>これまでに関与した地域情報化に関するプロジェクト</p>		<p>①2023年～2024年に福岡県北東部地域の7市11町で構成している北九州地区電子自治体推進協議会(KRIPP)における研修事業において、システム標準化に伴う移行手順やガバメントクラウド活用に関する勉強会を開催し、周辺市町村担当職員の課題に対する助言等を実施。</p> <p>②全国地域情報化推進協会(APPLLIC)の標準推進委員会の副委員長を北九州市が担っており、2022年からシステム標準化担当として標準仕様ワーキンググループや技術標準化タスクフォースのメンバーとして、システム標準化に関する意見交換を実施している。</p> <p>③2024年、自主研究グループ「ローカルガバメントクラウド研究会」を発足し、北九州市職員のみでなく、他自治体メンバー等とアフターガバメントクラウドとしての次世代自治体デジタル共通基盤のあり方についての研究に取り組んでいます。</p>